



おはなし

内田樹

思想家・武道家

能
羽衣はごうも

物着ものぎ

大島衣恵

いやうたが疑がいは人間にあり。天あまに偽いつわりなきものを

出雲大社
奉納能

2011年10月2日(日) 16:30開演

出雲大社神楽殿 入場無料(全席自由)

島根県出雲市大社町杵築東

主催——松江喜多会 松江乱声会 [お問い合わせ] 槻宅聡

Tel: 090-8049-7866 E-mail: tktk@wind.email.ne.jp http://www.ne.jp/asahi/home/tktk/

神々の国しまね古事記1300年助成事業

デザイン——石川陽春 イラストレーション——小西優子

2011年 10月2日(日) 16時30分開演

出雲大社神楽殿

入場無料
全席自由

出雲大社奉納能

「『存在しないもの』との
折り合いのつけ方」

内田樹

シテ(天女) 大島衣恵

能
羽衣
物着

ワキ(漁師) 安田登

大鼓 佃良太郎 太鼓 大川典良
小鼓 高橋奈王子 笛 槻宅聡

後見 渡辺康喜

地謡

角田正昭 門脇利尹
西尾茂 大島政允
奥田浩平 狩野琇鵬

「羽衣」

ところは駿河の国。漁師、伯龍が三保の松原に上がると、松に掛かった美しい衣を見つける。それを持ち帰ろうとすると、一人の女性が現れ「それは天人の羽衣ですから返してください」と呼びかける。伯龍は衣を惜しむが、天人の深い悲しみに心を動かされ、月宮の舞を舞ってくれたら返そうと言う。それでもなお、先に衣を返してしまうと舞をせがずに帰ってしまうのではないかと疑ってしまう始末。天人は「疑うという行為は人間だけにあつて、天上界に偽りが無いのだ」と諭す。やがて羽衣を着た天人はクセ、序之舞、キリと舞いつつ天に昇り行く。

※「物着」は、舞台の中央で衣を着る「小書」替への演出。羽衣を着ることによって天人が変容する過程をより強く印象づける。

出演者略歴



内田樹 うちだ・なつき

思想家。武道家(合気道六段)。凱風館館長。神戸女学院大学名誉教授。一九五〇年、東京生まれ。専門はフランス現代思想、武道論、教育論。自ら能を舞い、著書では能への言及も多い。二〇一〇年、『日本辺境論(新潮新書)で新書大賞2010大賞、二〇一一年、第三回伊丹十三賞を受賞。著書武道的思考(筑摩選書)『現代(蓋性論)講談社』など。



大島衣恵 おおしまきゆい

喜多流シテ方。公益社団法人能楽協会会員。一九七四年、広島県福山市生まれ。祖父久見、父政允に師事。喜多流に色濃く残る武家風の芸を忠実に身につけ、芯の強い謡と堅実な舞で、喜多流大島能楽堂を中心に、国内外の舞台に出演。二〇〇九年、ヨーロッパ、日本、中国にて英語能「PAGODA」のシテを勤める。福山市在住。



安田登 やすだ・のぼる

下掛宝生流ワキ方。公益社団法人能楽協会会員。米国Rollins Institute公認ロルファ。一九五六年、千葉県銚子生まれ。能のメソッドを使った朗読・群読の公演や指導も行い、論語と謡曲を中心とした寺子屋を開催。著書に『能に学ぶ身体技法』(ベースボールマガジン社)など。最新刊は『中国の古代文字から―身体感覚で「論語」を読みなおす』(春秋社)。



槻宅聡 つきたく・さとる

森田流笛方。公益社団法人能楽協会会員。一九六一年、島根県松江市にて出生。島根県立松江南高等学校卒業。国立能楽堂第二期研修修了。故・寺井啓之、中谷明(ともに重要無形文化財総合指定)に師事。東京の能楽堂を中心に舞台を勤める一方、廃絶した進藤流を手がかりに、松江藩の能楽について調査を行う。松江乱声会主宰。